



むぎの郷

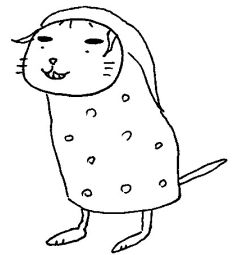
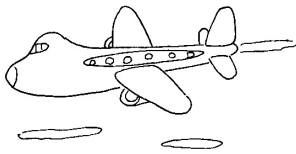
January 2015

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会
 〒640-8301 和歌山市岩橋643
 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
<http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、
 住民の手によって育てられる

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/
 麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所
 /はぐるま共同作業所 和の杜/けいじん舎/麦の郷印刷/はぐるま共同
 作業所 ラ・テール/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/
 ホームヘルプ麦の郷/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川・
 岩出生活支援センター/ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者
 サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室
 /麦の郷高齢者地域生活支援センター/ソーシャルファームもぎたて/
 事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所



くろしお作業所 「初詣」 1.5 (月)



麦ピース 「初詣」 1.5 (月)



和歌山生活支援センター
 「新年会」 1.6 (火)

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。





あけまして おめでとぅございませす



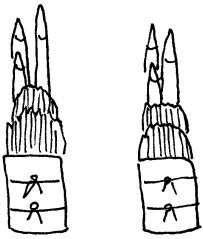
社会福祉法人
一麦会・麦の郷
理事長 田中 秀樹

昨年はお世話になり、ありがとうございました。今年もよろしくお願い申し上げます。

昨年11月末にイタリアへ行ってきました。

目的は精神病棟転換反対のためのDVD作成取材、そして、精神病院を廃止し地域での生活を支えるシステムを構築した、トリエステのまちを直接感じてみたいという願いからでした。

トリエステではバザリア医師が「自由こそ治療」と掲げ、精神病院を無くし地域での生活を支えるシステムが作られています。バザリア医師はファシストとの戦いで投獄されたこともあり、精神病院が監獄と同じ臭いを感じたのではないかと言われています。



トリエステの都市では、人口6万人に対して1か所の精神保健センターで急性期も含めて支援が行われていました。「彼らを障害者としてではなく『市民』として受け止め、市民としてのすべての権利を保障する立場である」と強調されていました。地域で支援することはまだまだ困難なことが多いが、「今の制度の中でもできる」こと、「改革は少数から始まる」という言葉やスタッフの働く姿勢を見て、バザリア医師の意志が脈々と引きつがれていると強く感じました。

また、イタリアでは社会的協同組合の組織が発展しており、障害をもった人の働く場が多く存在し、訪問した一行は本部敷地内にある協同組合が経営するレストランで食事をすることができました。

日本では精神科病棟を転換して「生活」の場にする動きが多くの反対を押し切っています。それによつて地域で生活するという立場とは正反対であり、障害者の権利条約を批准した政府の方針からも逆行するものです。

今回の訪問で麦の郷の進んできた道は間違っていないかったこと、日本の「きょうざれん」運動がとても大きな役割を果たしているというところを確認できました。

イタリアへ行って驚いたのは、到着した日と翌日では世の中が1時間遅れていたことです。ちょうど冬時間に変更になる時だったのです。



麦の郷の年男・年女

今年の抱負

はぐるま共同作業所 麦市

柏木 克之

今年の12月10日で還暦を迎えます。残された人生を完全燃焼させたいと決意しています。

具体的な目標

仕事

- ・更なる6次産業化の推進で、障害のある人や生活困窮者の仕事をつくる。
- ・生活困窮者自立支援法に対応できる体制をつ

くる。

・農業分野への参入（ハウス栽培設備の設置や、農業法人としての体制をつくる）

プライベート

・定年後住みたい、終の棲家をつくる準備にかかると。

・親族を集めて、還暦祝い講演を行う。



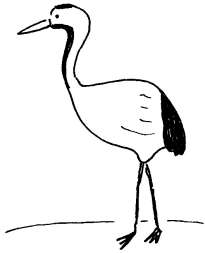
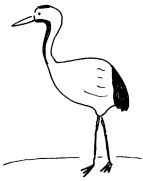
第二こじか園

楠見 優子

私は、子どもと少しでも接点のある仕事をしたいと思っていたので、採用していただき第二こじか園で働けることに日々感謝しています。第二こじか園でお世話になって1年4ヶ月が過ぎました。

今年は、去年の失敗を糧に、子どもたちと一緒に一年間の行事を通して、新しい経験に挑戦したり、わくわくしたり、まだまだ成長していきたいなあと思っています。

もこもこ羊毛のような温かさを忘れずに、今年も頑張りますので、よろしくお願いします。



むぎピース

西岡 直樹

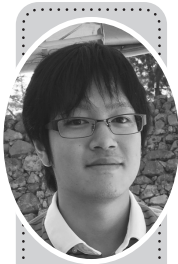
今年もむぎピースのみんなと本屋さんや図書館に行きたいです。『ドラえもん』を見つけると、手に取って見てしまいます。販売の仕事もがんばります（数字が得意です）。家にいることが多い私でしたが、今年初の遠出は、1月に、わらび座ミュージカル『ブツダ』を、田辺市に観に行きます。



むぎピース

宮本 紀子

明けましておめでとございます。新年を無事迎えられて、大変うれしく思います。さて、今年の抱負ですが、感謝の気持ちを忘れず、健康に気をつけて、マイペースで、毎日、職場のみなさんと仲良く働かせていただきたいと思います。



ラ・テール

湊 翔平

麦の郷で働かせて頂いて6年目、2回目の年男を迎えることになりました。

12歳の頃には24歳の自分の姿が全く想像出来ませんでした。まさか自分が福祉の仕事をし

ているとは夢にも思わなかったと思います。

抱負ですが仕事では、ラ・テールが今年10周年を迎えるので、更に先の10年を見据えた環境作りを始めたいと思います。個人では、去年からよさこいを始めたので本場高知の大会で踊りたい事と、クライミングで外岩に挑戦したいと思っています。日々勉強の毎日ですが、次の年男を迎える時にどんな自分になっているのか、今から楽しみです。



ソーシャルファーム もぎたて

喜多 朗

65歳まで仕事したいです。仕事たのしくしたいです。趣味散歩。山あるきたいです。



ソーシャルファーム もぎたて

紺谷 泰史

60歳になっても体がついていくかぎり、これからも仕事をバリバリがんばりたいです。女の人とたくさん話しをしたり美味しいものを食べたりカラオケも行きたいです。



全職員研修報告

あたりまえに働き
えらべるくらしをく

障害者権利条約はわたしたちの羅針盤！

麦の郷教育研修委員会

「知は力なり！」～互いに学びあい、実践を高め合おうと、2014年11月15日(土)麦の郷全職員研修会が73名の参加で開催されました。

今回は、きょうされん常務理事の赤松英知さんを講師として、障害者権利条約についてじっくり学ぼうというものでした。障害者権利条約は国連の人権条約の一つで、世界中の障害者のまだ実現されていない権利と、実現に向けてのしくみなどを決めたものです(2006年12月)。日本はようやく2014年1月に批准しました。条約は憲法と法律の間に位置づき、障害からくる生きにくさ(バリア)を取り除き、障害のない人と同じように社会参加できるようにするために、国内法の整備をしなければならぬということですね。現時点での国際的な到達水準である障害者権利条約！その基調である考え方は、障害を本人のせいにするのではなく、環境に働きかけることで障害の現れ

を軽減していくというものだと思えました。この考え方は、つらい思いをしてきている障害当事者を何より励ます、人間の英知だと感じます。この条約を宝の持ち腐れとせず、実質的に生活環境を整えていく手がかりとすることが、障害のある人やその家族のすくそばに位置づいている、私たち麦の郷職員の使命とも言えるのではないのでしょうか。

現在、わが国では、精神科病院の社会的入院問題解消の手段として精神科病床のホーム転換が進められており、時代を逆行させるのか、と思えます。イタリア視察から帰ったばかりだった赤松さんが、トリエステについても話されました。精神病院を全廃し、入院中心から地域生活での精神科治療に移行したとされているが、今でも病院のような居住の場があり、改革闘いは20年以上も続けられているとのことでした。私たちもすくなくじけたり、あきらめたりせずに、ぶれないためにも権利条約を指針として、その実現を前進させていきたいものです。

(江上)

第14弾

『障害者週間』

広がれネットワーク

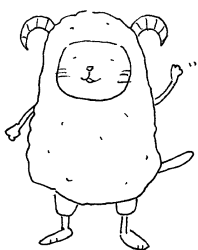
紀の川・岩出生活支援センター

今年も12月2日～13日に障害者週間として、那賀圏域の障害者福祉施設・家族・当事者・地域の方々が集まり「障害のある人が地域で豊かな生活ができる社会を実現するために」という趣旨で5つのイベントが開催されました。



松本ハウスお笑いライブ&トーク

今年のいちおしイベントは12月7日(日)「松本ハウスお笑いライブ&トーク」です！コンビのひとりハウス加賀谷さんが統合失調症を患い、10年間活動を休止の後、復帰されてから統合失調症の理解を広めるため各地で講演をされていらっしやいます。今回そんなおふたりに、地域の人たちへ精神障害についての理解を深めてもらおうと来ていただきました。当日は客席もほぼ埋まる盛況ぶり！テンポのいい掛け合いに最初から笑いが絶えませんでした。コントの後に加賀谷さんが統合失調症を発症してからこれまでのことや相手の松本キックさんの想いを語る講演があり、笑いを交えながらも加賀谷さんの辛さやキックさんの温かいまなざしを感じるお話で聞いていて



胸が熱くなりました。最後の質問コーナーでも、おふたりは質問をされた一人ひとりに丁寧に答えて下さり、来場下さった皆さんも「よかったです」と帰っていかれ大成功のイベントになりました。

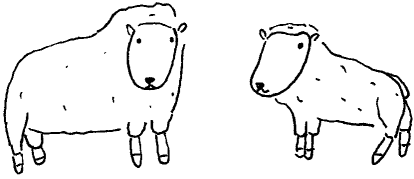
このイベントの他に新人職員研修「目からウロコ！〜障害のある子どもの理解と保育・教育」講師：赤木和重氏（神戸大学）や、市民向け講座「障害（がい）って何だろう？」講師：柴田竜夫氏（岩出支援センター）などの講演会もあり、わかりやすく和気あいあいとした雰囲気です。

また19回目となる「みんなの願いを語る会」も粉河山崎邸で開かれました。今回は子を残して逝く親の姿を描いた映画や、自閉症の作家、東田直樹さんのドキュメンタリー番組を鑑賞してみんな感動で涙涙。古川亜友美さんのチエンバリーハープの演奏にも心癒され、お母ちゃん達の思いいっぱい話もあり感動尽くの1日でした。

そして12日、13日には障害のある人達の作品展。絵画や型押しした皿、組みひも、編みかごなど、今年も見ていてわくわく楽しくなるような素敵な作品が集まりました。

私は今年初めて参加させていただきましたが、なかまのみんなの事を改めて見つめなおしたり新しい発見や感動にたくさん出会えた「広がれ」でした。今年参加できなかった方、まだの方、来年はぜひ来てみてください！

（閑林）



めぐりの日

麦ピース出張所 ポングリ図画耕作所

隔月に粉河の山崎邸で開催している「めぐりの日」。

「めぐりの日」の名前の由来は、「め」はひきこもり者社会参加支援センターハートフルハウス創はじめの「め」、「グリ」はアートをメインにした共同作業所の「ポングリ図画耕作所（おぎピース出張所）」の「グリ」。そして、この世の中で少し生きづらさを感じて生活している人たちが、ちよこつと主役になり、上下左右見渡してだれもがごちゃ混ぜに巡り合えるイベントになればとこの名前になりました。

めぐりの日のテーマは、毎回ちがって、「物々交換」「手づくり、手しごと市」「癒し」などの催しを行い、最後にライブで締めくくります。

特に印象深かったのは、ポングリ図画耕作所メンバーの朗読ライブで、自分の体験をもとに書いていた詩に生演奏で音をつけ読んでもらいました。

10分足らずの朗読はまるで映画を見ていたか



のように清々しく、辛い経験から出る美しい言葉は悲しさや切なさも感じさせながら「未来は明るいよ」と背中を押してくれるようでした。詩を読み終わる頃には、大きな拍手がおこり中には泣いている方も見かけました。

最初のうちは知り合い、知り合いの知り合いくらいしか来てもらえないかもしれませんが、小さい規模でも続けて行く事で名前も知れ渡って、地域の方、県外からも足を運んでもらい、普段味わえないコトを体験できるめぐりの日にしたいと考えています。

めぐりの日の宣伝のためにと地域に元気を振りまくために、着物を羽織り、白塗りしてちんどん太鼓をかき鳴らし、とんまか通りをみんなと練り歩きました。地域の皆様方から「毎日でもちんどん屋さん来てよ」との声、「昔が懐かしいよ」とおひねりをくださる方。小さな一歩かもしれないが地域とのつながりを深め地域と共に育ちあい、色んな人を巻き込んで歌って踊って笑って泣いて、時には怒ってそういうイベントにしていけたらいいなと思います。

（奥野）

第一回旅行 古都・京都へ

はぐるま共同作業所 麦市

11月半ばの気温の上がりきらない午前8時、計8名の麦市メンバーが続々とお店に集合しました。傍から見ればいつもの面子が仕事場に集まっているだけですが、ちよっといつもとは様子が違います。手には普段より大きめの鞆が見え、服装もお洒落な感じ。というのもその日、皆は何とも言いがたい高揚感を醸しながら、いよいよ始まるうとする麦市の初旅行をいまかいまかと待っているのです。

さて、記念すべき第一回旅行は古都・京都へ。旅程は、初日14日、妙心寺の思わず嘆息する大スケールの雲龍図と明智光秀を吊ったという“明智風呂”見学を皮切りに、続いて訪れた太秦映画村では、お化け屋敷の作法通りに(?)悲鳴を上げるメンバーがいるかと思えば、逆に涼しい顔でお化け攻略する人がいたり、初日からなかなかのハイテンションでした。

翌15日は、紅葉色づき始めた実相院の美しい庭園を眺め、下賀茂神社では紉の森を皆で並んで散策しつつ、幕間に祇園でお買い物タイム＆京都ならではのうなぎの寝床の間口を跨いで喫



茶店で一服。×の京都水族館では、興味深いオサンショウオに出迎えられ、イルカショーではイルカ笛を力いっぱいヒューヒュー吹いて(笛の音とイルカの動きが連動するのです)、一行は完全燃焼で帰路へ着いたのでした。日頃仕事場で顔を突き合わせている私たちですが、旅行という普段とは異なる環境で寝食を共にし、長い時間を共有したことで、以前よりもまた皆の距離が縮まったように思います。それに何より、楽しかったのだから。(辻岡)

20周年記念旅行 in 沖縄

はぐるま共同作業所

去る12月14日～16日、仲間の皆が以前より楽しみにしていた恒例の秋の旅行に行ってきた。今年にはぐるま共同作業所開所20年という節目の年にあたり、二泊三日の豪華な旅行となりました。行き先はこの季節一番気候も良く過ごしやすい沖縄です。

初日、皆期待に胸を膨らませバスは出発。一路閑空へ。そして飛行機に乗り込み約2時間30分の空の旅でした。那覇空港に降り立つとそこはやはり南国。バスの中ははまだクーラーがかかっている事にビックリ。昼食に沖縄そばを美味しく頂きバスは首里城へ。そして沖縄王朝時代の荘厳な歴史や建造物に間近に触れ、過去約600年もの昔の沖縄に思いを馳せました。続いて嘉手納基地を見学し一日目の宿泊先である残波岬口イ্যালホテルに到着。皆で協力しながら大浴場で一日の汗を流し、夕食の美味しい和食に舌鼓を打ち一日目終了。

二日目、美ら海水族館では皆思いきり楽しみました。特に10m近いジンベエザメの迫力には驚きと感動を覚えました。お茶目なエイにもつつい笑い顔に。そして昼食



を済ましコバルトブルーの海に架かる古宇利大橋を渡り古宇利オーシャンタワーへ。抜けるような青空と海面にまた感動し、波打ち際には水遊びをする人達の姿も見られました。そしてホテルに戻りこの日の夕食はゴージャスな洋食。仲間の皆も大満足でした。

三日目、最初の見学先ひめゆりの塔へとバスは出発。少し小雨の降る中多くの尊い乙女達の命が、儂くも戦争により失われた事実を直接語り部の方から聞く事ができ、今一度平和の尊さ、命の大切さを思い考える貴重な時間となりました。そしてラストに沖縄ワールドでは様々な沖縄芸能を満喫し今回の旅は幕を下ろしました。振り返れば沖縄の美しい景色やご馳走の数々、そしてたくさんの方々の笑顔に出逢う事ができ、仲間の皆にとつて一生忘れられない旅となった事でしょう。(金子)

一泊旅行在職者交流会

つれもて

平成26年10月24日～25日に、大阪府立青少年海洋センターへ和歌山支援センターとつれもて合同

で一泊旅行に行ってきました。つれもては在職者交流会の一環として取り組みました。和歌山支援センターに16時に集合し車3台で出発しました。出発前からみんなワクワクして、「誰と一緒にの？」「2日目のレクリエーションは何をするの？」などとそれぞれ話しをしていました。現地まで通常30分程で到着する所ですが、その日は渋滞に巻き込まれ1時間以上かかりました。到着した頃には暗くなっていました。

部屋割りを聞き、初めて会う人もいましたが「よるしく」と挨拶を交わし、「今は何をしているの?」「仕事しているの?」等会話を弾ませていました。部屋は2段ベットになっていて上か下か自分で好きな方を選べました。シートは各自で布団にセットをするようになっていて、セットの仕方が結構難しかったです。

夕食後はお楽しみタイムとして、加藤直人さんを講師に迎えて「今、ホットな話題、障害者権利条約と消費税を考える」と題した資料を基に話しをしていただき、和気あいあいと講座時間を過ごしました。その後ビンゴゲームやペットボトルを使った小ボーリング大会をしてすごく盛り上がりました。入浴を済ませ第二弾お楽しみタイムでは、お菓子を食べながらアルコールやジュース飲み放題で日頃の仕事情況や将来の夢などの話しをして小宴会になりました。なかなか話しは尽きませんでした。各部屋に戻り色々会話をしたと思います。

2日目はメインのクルーザーか石ころアート体験をしました。クルーザー体験では大阪湾を快適に航海することが出来て、「関西空港の近くまで行き飛行機を近くで見られた」と喜んでいました。石ころアート体験は、好みの形の石に絵を描きました(おにぎり、アンパンマン、トイ・ス

トリーカーズ、犬など)。

昼食はマリノロッジ海風館で海と緑をみながらハーフバイキング等を頂き、その後はお土産を買ったり、写真撮影をしました。一泊旅行の短い時間でたが有意義な時間を過ごし、楽しい思い出がたくさん出来た旅となりました。(南垣内)

あいあいホーム忘年会

居住福祉事業所

今年もあいあいホームの忘年会を「赤から」

に皆揃って行ってきました。焼肉も含めたお鍋のコースで皆お腹満腹まで食べました。

あいあいホームは男性ばかり7名の仲間が生活しています。忘年会何が食べたい?と聞いても毎年「お肉」と即答。なかなか食べにいけない



(南垣内)



い焼肉が1番人気です。その意見を尊重し今年も赤からになりました。実は去年も赤からだったのですが...

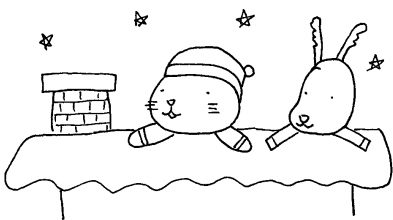
あいあいホーム皆の夕食時間はまちまちなので唯一、忘年会やレクの時だけみんな揃って夕食を食べます。仲間だけじゃなく、普段お世話になっているキーパーさんや当直に入ってくれている職員さんなど総勢15名での夕食でした。皆揃って食べるお鍋!!美味しかったです。

1年間みんな大病や大怪我もせず一生懸命事に励めたこと!みんなが元気に過ごせていることに感謝し食べるお鍋が、本当に何よりもご馳走で美味しかったです。

ひびきの郷でも調理の方や保護者さんに美味しい料理をたくさん作って頂き、キーパーさん、ひびきの郷に当直に入ってもらっている職員さんなど総勢15名でクリスマス会を行いました。保護者さんが作って下さるシフォンケーキが仲間も職員さんも私も皆の楽しみのひとつで、今年も美味しい美味しいと頬張らせていただきました。

仲間が今年一年も元気で過ごせたこと。こんなに沢山の方々に支えて頂けていること。改めて幸せだなと感じるひと時でした。この場をおかりして感謝申し上げます。いつも本当にありがとうございませう。

最後に2015年も仲間はもちろん、職員の方々、皆元気に過ごさせるようお願いいたします。(代表)





牛すじコロッケ受託製造で賃金10万円

10月末より、けいじん舎では、大手スーパーさんの牛すじコロッケの受託製造がはじまり、とてもいそがしくなりました。この仕事は、食品会社が大手スーパーさんの牛すじコロッケの製造先を探していたところ、けいじん舎のコロッケ製造を知り、受託製造のお話が持ち込まれました。はじめは、本当にけいじん舎で 製造させてもらえるかと信じられないお話でした。食品会社の若い社員さんが、何度も試作に來られて、牛すじコロッケが完成。大手スーパーさんも、たいへん満足していただける出来映えでした。10月末の販売開始以来、牛すじコロッケの製造の日は、いつもは2時で終わっていた従業員も4時まで仕事をしてくれます。箱詰め担当者は、5時まで残ってくれています。自分から、朝8時に出勤して仕事が段取りよく進むように準備をしてくれる人。また、仕事の終わる8時ごろまで、グチ一つごぼさず残って仕事をしてくれる人もいます。従業員全員がそれぞれに力を発揮して、牛すじコロッケの製造が進んでいます。給食担当のみんなや、事務の職員にも助けてもらい、11月には、3万個も納品しました。11月分の給料が振り込まれた翌日、「お給料増えました」とうれしそうに報告してくれました。今までは、6万円くらいの給料が9万円から11万円に増えて、みんなとても喜んでいました。牛すじコロッケがたたくさん売れるように、いつもおいしくて、きれいな形のコロッケづくりに気を配って、みんなでがんばっています。

けいじん舎は、A型事業所として、従業員と雇用契約を結び、最低賃金を保障しています。しかし、2008年10月に開所以来、従業員の8割の雇用形態は、週20時間の短時間雇用で、賃金も6万円ぐらいでした。今回の新しい仕事を軌道に乗せ、週40時間の雇用を目指したいと思っています。

関西電力さん ありがとうございました

昨年の11月13日、関西電力株式会社和歌山電力所の方がボランティアで麦の郷の掃除に來てくれました。今年で10回目になります。なかなか手が届かない蛍光灯や窓などの高いところの掃除をしていただき、とてもありがたいです。本当にありがとうございました。



ミュージカル ブッダ (わらび座) のお知らせ

2015年1月30日に和歌山県共同作業所連絡会が和歌山県田辺市にてわらび座を招いて、ミュージカル ブッダの上演が行われます。今回のミュージカルは、県内の障害者が一堂に会し、文化事業として「皆で考える・感じる」ことが出来る企画とし、文化事業に関わることで、改めて障害者が働く・暮らすの意味や生きる喜びや楽しさを感じ取ってもらえればと考えています。また、2020年にはきょうされんの全国大会を和歌山で開催することが決定しており、大会を控え、物事を創り上げる力を支援員に培って欲しいとの思いも込められています。職員が育つことが今後の和歌山県の障害者福祉を担っていく大きな力となります。今回は田辺市、紀南文化会館での開催となり、和歌山市から少し遠方になりますが多数お誘い合わせの上、御参加頂ければと思います。(谷口)

サポートセンター移転のごあいさつ

サポートセンター「麦の郷」は、「障害児者地域療育支援事業」の時代も含め、平成18年和歌山市から委託を受け、相談支援事業を17年間山口地区でお世話になってきました。前任者の半田、鈴木、川村・山本と本当に地域の方々に指導していただきながら、応援して下さる多くの方の力を借りて地域の相談支援事業所へと成長させていただきました。ありがとうございます。

このたびサポートセンター「麦の郷」は岩橋地区にある本部内に移転しました。本部の中に相談支援事業所を位置づけさせていただき、麦の郷で働いている、あるいは生活しているなかまの相談に、より身近でのらせていただく事になりました。

障害のある方の働く場や暮らしの場においての課題やニーズは、多様化しまだまだ山積みです。障害があってもなくても等しく地域の中で豊かに生きられるように、新たな資源づくりを含めた事業の発展に邁進していきたいと考えております。岩橋地区でも引き続き、よろしくお愿いいたします。(川村)

新住所：和歌山市岩橋643 (本部玄関入ってすぐ右が事務所です)

電話：073-472-8549 FAX：073-472-8563 Email：ichibaku@muginosato.jp

第38回 障害児者家族のつながりを広める

文化祭

2015年 2/22日 AM10:00~PM2:00

和歌山市民会館

和歌山ろう学校 高等部2年 荒井 英純
紀伊コスモス学園学校 中学部3年 山本 步美

今年出場が違います！

入場無料 参加費2,000円

- 観望窓・大テラス
- 交流広場
- 展示・商品販売
- 観望コート
- おしゃべりのコーナー
- マツカワコーナー

和歌山市民会館 主催

イラスト：殿垣内能範/studio tono